１　番　和　　田　　それでは、質問させていただきます。

受付番号第１番、質問議員１番、和田成功。

件名、「心に寄り添う子育て支援」。

令和６年５月１日現在、当町の人口は9,375人で少子高齢化が進んでいる現状である。

子どもと親を取り巻く社会環境が変化する中では、子どもの視点に立ち、生涯学習の始まりとして人間形成の基礎を培う幼児教育の観点、そして社会全体で次代を担う子どもたちの育ちを支える次世代育成支援の観点などを踏まえた施策に取り組むことが重要と思われる。

そこで当町の特色を生かし、切れ目のない子育て支援として「０歳から15歳までの一貫教育・保育」をさらに進化（深化）させることにより、少子化対策、子育て世代の移住定住に寄与するものと考え、次の質問をする。

１．０歳から15歳までの一貫教育・保育の取組状況は。

２．切れ目のない子育て支援の現状をどのように捉えているのか。

３．やまきた児童クラブの運営状況は。

以上。

議　　長　　答弁願います。

町長。

町　　長　　それでは、和田成功議員から「心に寄り添う子育て支援」についての御質問をいただきました。

初めに、１点目の御質問の「０歳から15歳までの一貫教育・保育の取組状況は」についてでありますが、山北町では、幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校が全て公立である強みを生かし、令和４年２月に「０歳から15歳までの一貫教育・保育」基本方針を策定いたしました。

令和４年度からは、基本方針で示された「目指す子ども像の共有」、「山北スタンダードカリキュラムの推進」及び「切れ目のない子育て支援体制・支援につなげる情報共有」を柱に、「社会の中で他者とよりよく関わりながら自分らしく生きることができる人間力と社会力の育成」を目指して保育・教育を進めております。

２年目となる令和５年度は、子どもの育ちと学びのつながりを意識した、

より質の高い教育・保育の実施を目指し、山北町の特色を生かした５分野の一貫教育・保育のモデルカリキュラムの編成に取り組みました。

３年目となる本年度は、このカリキュラムを基に各園・学校で実践し、改善を図るとともに、新たに「人権教育」、「特別支援教育」、「ＩＣＴ教育」、「健康と運動」の４分野のモデルカリキュラムの編成に取り組んでまいります。

また、昨年度から実施している教職員の異校種間体験研修を継続し、お互いの教育・保育についての理解を深め「０歳から15歳までの一貫教育・保育」をさらに深化させ、切れ目のない、より質の高い教育・保育と子どもたちへの支援の充実を図ってまいります。

こうした一貫教育・保育の取組により、特に小学校新１年生は、行ったことがある学校、知っている先生、遊んだことのある上級生がいることで、入学への不安を減らすことができています。また、小学生は中学生との交流を通して「憧れの姿」を見ることにより中学生活への期待を膨らませることができ、下学年にとっては期待や憧れを、上学年にとっては責任や緊張感を持てる貴重な機会となっています。

なお、昨年度の課題として、３園から小中学校との交流が充実した一方、３園間の横の交流が少ないことが挙げられたため、今年度は３園交流を昨年度以上に計画いたしました。

また、「０歳から15歳までの一貫教育・保育」の推進体制として、研究について協議をする「学びづくり研究推進委員会」と連携・交流について協議する「山北町豊かな学び研究会」の二つを設置しておりました。これまでの取組状況等を踏まえ、本年度、二つの組織を併せた「山北町豊かな学び研究推進委員会」を新規に設置する推進体制へと見直しを図り、新たに組織した委員会を中心に具体的な実践研究と振り返り、そして次年度に向けた検証を行ってまいります。

次に、２点目の「切れ目のない子育て支援の現状をどのように捉えているのか」についてでありますが、山北町で実施している子育て支援といたしましては、主な施策として10項目が挙げられます。妊娠・出産時に関する制度といたしましては「妊婦健康診査費用補助」、「妊婦タクシー助成事業」、

「出産祝い金」、「子育て応援交付金」、「新生児聴覚検査助成事業」の五つであります。育児期に関する制度では「紙おむつ支給制度」、「小児医療助成制度」、「保育料の一部補助」、「各園の給食費の全額補助」、そして「小学校・中学校の給食費の一部補助」につきましては、コロナ禍において、国の新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金を活用し、令和２年度と令和３年度に６月分、令和４年度に９月分、令和５年度と令和６年度は全額の補助の五つを実施しております。

これらの制度はいずれも、保護者の子育てに対する経済的負担の軽減を図る制度ですが、昨今の物価高騰により、ますます家庭の経済的負担が増えていく中で、安心して子どもを産み育てることができるよう、子育てに優しい環境を整えることが、これまで以上に重要になると考えております。

その上で、昨年度には、小児医療費助成の対象をこれまでの中学生までから高校生世代まで拡充し、また、園における完全給食化及び紙おむつの持ち帰りを廃止するなど、制度の充実に努めております。今後も継続して、このように数値には表れにくい部分の質の改善についても取り組み、よりきめ細やかな子育て支援の在り方について、検討してまいります。

次に、３点目の「やまきた児童クラブの運営状況」についてでありますが、やまきた児童クラブは児童福祉法第６条の３に基づく放課後児童健全育成事業であり、平成25年４月に公設公営で事業を開始して、支援員の専門性の高まりや人材の安定的な確保などを理由に、令和３年10月から業務を民間に委託しております。

令和６年４月の開所状況については、利用登録者数135人、開所日数25日、延べ利用人数1,454人で、１日当たりの平均利用者数は58人となっております。

この事業の目的は、発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるよう、当該児童の自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣の確立等を図り、もって当該児童の健全な育成を図ることとしております。学年の枠を超えた、遊びや体験の機会を充実させて、子どもの遊びの場を豊かにしてまいります。

令和６年２月に利用者を対象にアンケートを実施しましたところ、児童クラブ全般の印象としては94.7％の方が満足もしくはおおむね満足との回答を

いただいております。「今後開催を希望するプログラム」という設問では、「運動系」「工作」「外国語・国際交流」などを要望する回答が見られましたので、この結果を参考に、今後の活動に生かしていけるよう事業者との連携を図って検討してまいります。

議　　長　　和田成功議員。

１　番　和　　田　　それでは早速、再質問させていただきます。

まず「０歳から15歳までの一貫教育・保育の取組状況は」の回答について、再質問させていただきたいと思いますけれど、実際回答の中にもあります小学校新１年生、スムーズに園から小学校へ入学、通学できているかなって、そういったところを見ると「０歳から15歳の一貫教育・保育」というのは効果が現れつつあるのかな。今後も積極的にそういったところ進めて、スムーズな連携というんですか、つながりというのを進めていっていただきたいというふうに考えております。そうしまして、中でＩＣＴ教育、ここの部分ですけど、実際、授業拝見させていただきました。タブレットや大型モニターを使って授業取り組まれています。その辺ＩＣＴ教育といいますか、活用して、やられているのは分かりますけど、何ていうんですかね、テンポが悪いというか、まだ慣れてない、先生が慣れてないといったところでリズムが、ちょっとあれなのかな、子どもがちょっと間で集中を切らせてしまうような、そういった場面が見てくるんで、その辺ＩＣＴ教育支援といったところはしっかり取り組んで今後も行かれると思うんですけど、その辺、今後の取組について、どのようなお考えをお持ちか御説明願います。

議　　長　　こども教育課長。

こども教育課長　　今、ＩＣＴの関係で御質問いただきました。

ＩＣＴにつきましては、令和２年度に１人１台パソコンを導入しております。教員も、授業での活用について日々勉強しながら取り組んでおります。もちろん、得手不得手があることは承知しておりますが、各校に、ＩＣＴ支援員を配置し、使用、活用方法について支援を行っておりますので、このような状況は、これから改善されていくものというふうに考えております。

以上です。

議　　長　　和田成功議員。

１　番　和　　田　　以前からＩＣＴ支援、充実させていくべきだというふうに言わせていただいておりますけれど、今後積極的にね、取り組んでいっていただいて、効果が現れることに期待しておりますけれども、スムーズに上がってはいますけど、小１プロブレムというところの解決にはまだ、始めてすぐなんで、そうすぐには解決はしないでしょうけど、そういった部分の見てきた課題というのをどのように捉えられているのかといったところを御説明願います。

議　　長　　教育長。

教　育　長　　それではお答えいたします。

幼稚園、保育園の園教育から学校教育へのつながりの中で、今言われたように小１プロブレムという課題は過去からずっとあるわけですね。おそらくこれについては永遠の課題の部分かもしれませんが、ただ、山北町の教育の中では、先ほど話があったように、０歳から15歳の一貫教育・保育の中で、先生方がまず連携、お互いに顔の見える先生方の交流、こういうものをまず通して、先生方がまずお互いを知り合っていく、こういうことが一つと同時に、そこにいる子どもたち、園の子どもたちが、例えば小学校への訪問、そういうものの中で、繰り返し出かけていくこと、回数的には限りがやっぱりありますが、お互いに相互につながり合うという中で、子ども同士の人間関係の育成、そういうものを繰り返すことによって、お互いに「あ、あのお兄ちゃん、知っている」とか、あの子は近所のあの子だとか、そういうつながりがより深められるような取組を、今言いました一貫教育・保育の中で、推進して、今後とも取り組んでいく、そして子どもが安心して通学できるような、そういう関係性をつくっていきたいと考えています。

以上です。

議　　長　　和田成功議員。

１　番　和　　田　　今言われたように異年齢というんですかね、この交流があることによって本当に上級生から１年生が声かけられてる場面、また１年生、低学年の児童が高学年のお兄さんお姉さんに声をかけてる、そういった部分、よく拝見してます。やっぱりこういう効果が現れつつあるのかなといったところで効果とかそういったところばかり追い求めるんではなくて、やはり本当に中心にいる児童・生徒、そこのために、しっかりとこの部分は取り組んでいってい

ただきたいかなというふうに感じております。

そうしまして、ちょっと一貫教育・保育のところで、前回も質問させていただいた校舎、川村小学校の長寿命化に向けての大規模改修の部分で、ちょっと触れさせていただければ思うんですけれど、令和６年度実施設計といったところをやられるといったところだと思うんですけれど、実際行政的、財政的な部分で多くて、長寿命化するというところが大きいかなといったところもあると思うんですけれど、実際、実際といいますか、子どもたちがやっぱりメイン。また現場といったそこの声なり、そういった部分をきちっと反映させた大規模修繕実施計画、実施設計ですか、そういったものに取り組んでいっていただきたいと思うんですけど、その辺についてはいかがですか。

議　　長　　教育長。

教　育　長　　小学校の大規模改修ということの中で子どもたちの、やはり生活、環境の中の重点なものですから、今、議員から質問あったとおり、子どもたちのやっぱり考えも反映していくというところはあるかと思います。これについては、行政のほうと同時に、関係の機関そういうものを通して、町の取組の中で、先生方であるとか、いろいろな様々な関係機関の意見を聞きながら進めています。

例えば具体的なところを言いますと、校舎の使い方、これも先生方の部分もありますけれども、子どもたちにとってもプラスになるように、例えば教室の中の、昔は教卓という台がありますけれども、そういう中では、それをフラットな状態にしまして、機能的な、そういう段差を取り除いた中で、それが取り除くことによって、例えばいろいろなものをそこにスペースができると同時に、配置が出たり、そういうものの中で活用ができる、多目的なものも含めて校舎の取組ができるようにしています。

そういう部分も含めて、また改修に当たっては、子どもたちの意見もまた聞けるところは聞きながら対応できるところはしていきたいとは思っています。

以上です。

議　　長　　和田成功議員。

１　番　和　田　　そういうふうに進めていっていただきたいかなと思っております。

それで、安全面といったところで、私ここ最近、何度か川村小学校を訪れていて、階段の手すりについて、Ｂ棟、グラウンド側の校舎の西側ですかね、には手すりがついてます。でも東側の階段には手すりがついてないと。今、現代、公共施設で階段に手すりがついてないというのは、どうなのかといったところで、安全・安心といった部分を考えれば、階段にはちゃんと手すりを設置する。そういった子どもの安心・安全を守るためには、やはりそういった部分、改修の中に入れていくべきではないかというふうに考えておりますし、大規模改修で本当に今、多分今の校舎は設計、多分50年ぐらい前の話でしょう。その頃の教育環境としては校舎でよかったのかもしれませんけど、これから延命化で20年、30年先までといったところで、現代の教育環境に合う施設の整備というんですかね、そういったところ、今の最適化というんですかね、そういったところも踏まえてきちっと整備をしていっていただきたい。実施設計等をしていくと思うんですけど、実施設計を終わってから、議会に説明されるのかなと思うんですけど、そこではもう変更することすらできない、であれば前段のところで、議会に対して説明等をしていただければと思うんですけど、その辺についてはいかがお考えでしょうか。

議　　長　　こども教育課長。

こども教育課長　　大規模改修につきましては、昨年度、学校の関係者と教育委員会と、会合の場を３回ほど設けまして、実施設計のほうは３回。実施設計、基本設計のほうを策定いたしました。本年度につきましてはその結果に基づいて、委託業者と、また学校ですね、あと教育委員会と３者で、しっかり内容については今後検討していきたいというふうに考えております。

契約につきましては、直近で契約したばかりですので、また詳細のスケジュールも決まってませんので、まだこの場ではっきり議会のほうに、どのタイミングでどの内容まで説明できるかということは明言できないんですが、必要に応じて、しっかり説明のほうはさせていただきたいと思っております。

議　　長　　和田成功議員。

１　番　和　　田　　タイミングを見て、御説明願えるといったところで、よりよい教育環境を整備するといった部分で、議会側もしっかりとそこを見ていただくといったところも必要かなと思ったんで、そういうふうにタイミングを見て説明いた

だければと思います。

続きまして、コミュニティースクール絡みのところでございますけど、３園間、３園運営協議会という３園の園長先生、保護者会、そして地域の方、３園運営協議会という園の取組されています。やっぱり園ごとに取組状況というのはちょっと違ってくるのかな。こども園、保育園、幼稚園それぞれやれることって、違ってくるというのはあれですけども、少し連携を強化していったほうがよろしいのではといったところが感じているところでございますけれど、その辺について、今後３園交流を積極的にやられるような回答もあったかと思うんですけど､その辺について今後どう取り組まれていくのか、説明願います。

議　　長　　教育長。

教　育　長　　お答えいたします。

幼稚園、保育園、こども園の３園の交流ですけれども、昨年５歳児の横のつながりということの中の強化ということで取組を、計画を立ててるわけですけれども、実際には、天候とかいろいろな諸条件の関係で１回のみの実施ということでやりましたけれども、今年度につきましてはそこのところをさらに強化すると同時に、今、そういうことのできなかった天候に左右されるようなことがないように、予備日等も設けながら、新たに、５歳児の交流計画ということで考えております。

これに合わせて、３歳児であるとか、それから５歳児との、今度は１年生との交流であるとか、園同士の交流、そういうものも含めて、園児の交流と同時に、先生方の交流ということで、私が今把握しているのは、校長・園長会の中で、その後に園の園長先生、副園長先生方の打合せ、そういう中でお互いの情報交換、より密にしていただきながら今言ったような課題、そういうものを一つ一つ情報交換、一応リアルタイムで分かるような形でできるように、また、そういう校長・園長会では１か月に一遍になってしまいますけども、それ以外のところでも連携は取っていただくようにお願いしているところでございます。

以上です。

議　　長　　和田成功議員。

１　番　和　　田　　今、教育長のほうから御回答がありましたけど、そういうふうに進めていっていただければよいかなというふうに思いますし、期待もしております。

回答の中に「山北町豊かな学び研究推進委員会」を新規に設置するという回答があったかと思うんですけど、この委員会、構成、どういうメンバー、どういうふうに考えられてるのか、どういった活動をしていくのか、年に何回ぐらいやるのかって、そういった細かくてまだ決まってないかもしれないですけれど、そういったものを分かる範囲で御説明願えればと思います。

議　　長　　こども教育課長。

こども教育課長　　昨年までは、「豊かな学び推進委員会」というものと「学びつくり推進委員会」、この二つがあったんですが、まず豊かな学び推進委員会につきましては小学校、中学校、岸幼稚園、向原保育園、やまきたこども園とこども教育課のメンバーで組織しておりまして、その中に小学校と中学校は交流の担当の教員に入っていただいております。

もう一つの学びつくり推進委員会につきましては、交流の方に代わりまして、研究の担当の方が入っておりまして、この二つで事業推進するために委員会を開催していたんですが、昨年交流につきましては一定の課題も見てきましたので、その辺を踏まえまして、今年度はその二つを一つにして、交流の方は抜けていただいて、抜けるというか、交流の方は入らずに、研究の先生が入ったメンバーということで、今年からは新たな組織体制で推進をしていきたいというふうに考えております。

議　　長　　和田成功議員。

１　番　和　　田　　そういった回答にあるようにしっかりと進めていっていただきたいかなといったふうに思います。

では、続きまして二つ目の切れ目のない子育て支援のほうに移らさせていただきます。子育て支援、いろいろやられています。でも、やってるからそれでいいんだではなくてね、やはり時代の変化とともにニーズ、多様化してます。そういったところでやはり、心に寄り添うような支援になるように取り組んでいく必要もある、そういうふうに考えております。

３月ですかね、のときにも言わせていただきましたけど、物価高騰で紙おむつ支援制度やってますけれど、やはり物価高騰でなかなか想定してたよう

なおむつを買える状況ではないといったところで、その辺の対応をといったところで前向きな回答はあったかと思うんですけど、その後に進捗状況といいますか、その辺について説明願えればと思います。

議　　長　　福祉課長。

福　祉　課　長　　紙おむつの制度の見直し等についての進捗状況というお話ですけども、こちらにつきましては、現在、今年度子ども・子育ての支援計画の改定を予定しております。その中でニーズ調査を小学生、それから未就学の全世帯を対象として実施させていただきます。この中で、実際利用された方、現に利用されている方のニーズやお声を聞くという形で、町の子育て支援の紙おむつに限定せず、諸制度についての御要望という形でアンケート欄を設けておりまして、その中で現在の使い勝手であるとか、制度をどのように改正すればよろしいかということで御意見をいただきたいと思っております。

また、現在の子育て支援センターのほうで町民の方も利用されております、当然利用されておりますので、その中でも、個別で聞き取りとかできればよろしいかなと思っておりますので、現在、その来年度の価格等の改定、制度の改正に向けて、準備作業を進めている段階でございます。

議　　長　　和田成功議員。

１　番　和　　田　　回答の中に来年度に向けて検討されているといったお話でしたけれど、これ、紙おむつ支給制度ですか、というネーミングですけど、いろいろ紙おむつにこだわらずにミルクにしたり、おしり拭き、そういったものにも使えるような、拡充していく、そういった制度に変えるタイミングというか、ほかの自治体でもそういうふうに幅広く支援しているといった事例もございますので、紙おむつという限定ではなく、幅広く使えるようなそういった制度に変えていくというか、変更していく必要性があるのかなというふうに考えておりますけど、その辺についてはいかがでしょうか。

議　　長　　福祉課長。

福　祉　課　長　　こちらの制度の見直しですけども、現在、本町の紙おむつ事業につきましては、紙おむつ支給事業につきましては、紙おむつ限定とさせていただいております。

今も議員のほうから御指摘ありましたように近隣の他町につきましては、

紙おむつ事業、支給事業という名称も大事なんですけども、おしり拭きでありますとか、粉ミルクということで、赤ちゃん関連のものが買えるようになっております。

今回、来年度の改定に予定しておるんですけども、その中では、より使い勝手のいい制度ということで、紙おむつに限定せずに、他町の例を見習った中で、そういうところも改正のほうをしていけたらとは考えております。

議　　長　　和田成功議員。

１　番　和　　田　　今、回答ありました、そういうふうに柔軟にね、対応していく、変えていく、やはり保護者のニーズですとか、そういったものは多様化しております。そういったところに行政として、しっかりと寄り添うように支援をしていくことが子育て支援の、真に切れ目のない子育て支援につながる。心に寄り添うような、柔軟に対応していく、スピード感を持って柔軟に対応していくということで、保護者の方が安心・安全に子育てできるというイメージがつけば、山北に移住・定住、子育て世代が来る、そうすれば少子化対策等にもつながってくるのかなって考えます。そういった部分で、ただ子育て支援だけ充実させるというと、そこに関わらない方たちが何で子育て支援ばっかり充実させるんだという誤解を招く、かねないというのはあるんで、やはり町づくりとしてやっぱり次代を担う子どもたちをしっかり地域で、町全体で育てていく、そういったビジョンをやはり町として、町長自ら示す、そしてそのために子育て支援を充実させるんだというふうなアクションを取られたほうがよろしいかと思うんですけど、その辺について、町長いかがでしょうか。

議　　長　　町長。

町　　長　　ありがとうございます。おっしゃるとおりだというふうに思っております。

やはり保護者の方のニーズが、年々、年々様々に変化している。また皆さん個々の人が違うということは当然だというふうに思っておりますので、それらを全部かなえるということはできませんけども、そういった意味では、変化してる保護者のニーズに寄り添いながらね、子育て支援、あるいは、また０歳から15歳までのカリキュラム、しっかりと充実させていきたいというふうに思っております。

議　　長　　和田成功議員。

1　番　和　　田　　そういった部分では本当にしっかりと子育て支援、寄り添った子育て支援、ていったところを積極的に取り組んでいっていただきたいというふうに考えております。

また、何度か町長の思いで語っていたフレーズが川村小学校、中学校、最低でも二クラスは維持したいというようなお話でした。資料こちらにあるんですけど、おおむね二クラスいて、今年はうれしい悲鳴といいますか、川村小学校５年生、三クラスになっております。そういうふうに予想外に２クラスの想定が三クラスになるような、そういったことが続いて苦しい状況になるのかもしれないですけれど、そういったことが起こり得るような取組というのが必要かなといったところですが、２歳児、ここが大分お子さんの数が少なくて多分、今の２歳児が小学校に入学するとき、一クラスになってしまうんじゃないかというような懸念がございます。

やはりそういった部分で、子育て支援、町長が目指してる最低でも２クラスというのを維持するためには、やはりここで子育て支援、大きく取り組んでいく必要があるといった中で、以前から言って、再三言われてまたかって思われるかもしれないですけど、給食費無償化。ここはやはり視野に入れて、財源があるからやるんではない。やりたいことがあるから財源を確保する。そういったものの考え方というんですかね、取組というのが必要なのかなと。やっぱり町づくりに、子どもたち、次代を担う子どもたちの支援って必要だと思うんですよね。そういったところをきちっと取り組んでいく、そこを示すというのがやはり町長の役目なのかなって考えておりますけど、その辺についてはいかがでしょうか。

議　　長　　町長。

町　　長　　一番難しいところというんですか、今現在、消滅自治体というお話があって、山北町もその中に入っております。これはあくまでも生まれる子どもの数だけを、何というんですか、当てにしてやるということですから、実際には統計学上も山北町、子どもの生まれる出生数がどうしても減少して、その中で、二クラスをどうやって維持していくかということになると子育て支援はもちろんなんですけど、やはり移住・定住というような中で、やはり山北町に住んでいただいて、そしてお子さんを生んでいただくなり、あるいは、

また移住したときに、お子さん連れでというふうなことがある程度、今現在、少しずつあっております。

今山北町は、生まれるお子さん数と亡くなる方の数の差が100人以上あります。その中で、社会増減の中の都会のほうに行かれる方と入ってきていかれる方が大体追っつかず、プラマイゼロぐらいになっております。こういう中で、もう少し、そっちのほうも、移住・定住のほうも強力にやっていかないと、この二クラスというのはなかなか難しいんだろうと。ただ、生んでいただくだけの施策では限度があるというふうに思ってますので、二つを合わせながら何とか二クラスを維持していきたいというふうに考えております。

議　　長　　和田成功議員。

1　番　和　　田　　今も町長のほうから二クラス維持していきたいっていったお話でした。

答弁の中で消滅可能性自治体という話もありました。

これについて調べさせていただきました。消滅可能性自治体から脱却した自治体も何自治体かありますよね。やっぱりそういったところの自治体の事例を見ると、やはり子育て支援に力を入れたといったところが、かなり多かったかな。企業が企業誘致して、就労の場が広がって、そこに子育て世代が移住されてきたというので脱却した自治体もございますけれど、そういった部分で大企業を誘致する、就労の場を増やす、また子育て支援を充実させる。やはりそういうふうにやっていく、町づくりのためにそういうふうにやっていく、ただ単に子育て支援ではなく、今後未来を見据えて、未来の投資という考え方で、今子育て支援をさらに取り組んでいかなければ、少子化、これは止まらないんではないか。町長が目指す最低でも二クラスというのを維持できないんではないか。町づくりのために今、子育て支援が必要なんだ、手厚くするんだと、そういった考えを持って、来年度以降、予算に反映していっていただければなというふう考えますけど、いかがでしょうか。

議　　長　　町長。

町　　長　　二クラスが私は希望でございますけども、基本的にそこのところを、子育て支援にあまりにも力を入れ過ぎる、そしてそれだけが要するに、二クラス、あるいは子どもの数を維持していくというようなことは、現実的には非常に難しいというふうに思います。和田議員も言いましたように、例えば就職、

住んでいただくためには、山北町に働く場所がなければいけないというようなことがございます。

山北町、現在、二次産業、工業系のところでございますけど、他町から大体4,000から5,000人ぐらいが働きに来ているのが実態でございます。つまり働く場所がないんではなくて、いろいろなところがあるんだけども、そういうような中で、山北町に住んだからといって、働く場所がないというふうに単純にはいかないというふうに思ってます。

また山北町で働かなくても、山北町現在はそういう他町からかなりの方に来ていただいておりますけど、また逆に山北町から隣町とか小田原とか、小山、御殿場というようなところも非常に今、当然働く、何ていうんですか、従業員が不足しているというようなのが実態でございますので、私は働く場所がないということよりも、やはり住宅環境、あるいは教育環境、あるいは生活環境、あるいは医療に対して充実していく、そういったようなことで、そこに住んでいただく方が増えて、子どもの数も、最低限のところでいっていただけたらいいんじゃないかなというふうに思っておりますんで、ただただ、子ども、子育て支援だけをやれば子どもの数が安定するということにはなかなかならないし、また他町もほとんどどこの自治体も競争ですから、給食費を無料にするんだとか、いろんな施策を競争みたいにやっておりますけど、多分それだけでは、なかなか山北町を選択していただくだけにはならないというふうに思いますんで、総合的な中、やはり山北町に住んでいただくことを選んでいただくような、そのようなことをやっていきたいというふうに思っております。

議　　長　　和田成功議員。

1　番　和　　田　　回答ありました。いろんなところで子育て支援やっている、そこの中で山北をチョイスしてもらうといったところなんですけど、チョイスしてもらうポイントとしてやはり０歳から15歳の一貫教育・保育、これは大変魅力的なすばらしい取組だと思います。でも実際、すてきな取組だとしても実際に子どもたちいなかったら何もならないわけですよ。そういった部分で、町づくりのために子育て支援、子育て支援だけを充実させる、それで少子化が変わる云々という話ではなくて、やはり町づくりという大きなものの中で子育て

支援というのが今大事なんだと、ここに今、力を入れていかないと今後、山北の20年、30年先というのを見据えたときに今ここで、大きな決断じゃないですけど、取組をしっかりやっていく必要がある。そこをやはり町として示して、町民全体、やはり地域で育てる、町全体でこの次代を担う子どもたちを育てる、見守る、そういった町づくりを進めていく必要性があるのかなというふうに感じております。その辺についてはいかがでしょうか。

議　　長　　町長。

町　　長　　おっしゃるように、例えば隣町の松田さんなんかは交通系のことを、「のるーと」とかいろんなことをやっておりますけれども、本山町長も言ってるのは、スーパーがないというのが、松田にとって非常にデメリットであるというふうにおっしゃってます。山北もかつてそういうことでしたので、そういったような生活環境を充実させるためにね、スーパーマーケット等を誘致いたしましたけども、そういったようなことと同じようなことが非常に大事だというふうに思ってます。

一番先に聞かれるのは、私なんかも移住してきた人に聞かれるのが、一つ目が子どもの病院がどこにあるのって、必ず聞かれますね。小児科はあるの、あるいは内科はどうなのって。そういったことが、真っ先に聞かれる条件です。ですから、もし来ようと思って子どもがいらっしゃると、子どもの、学校のほうは、どうにかこうにか遠いか近いかだけの話だと思いますけど、病院だけは、どうしても近くにないと非常に不便だというふうなことは思ってますんで、そういったことが一番聞かれる。ですからスーパーマーケットも当然そうですけども、様々なことが必要とされるわけですから、うちのほうで一番今悩んでるのは、やはり交通系が非常になかなか、やってるんですけど、なかなかこれだというものも、まだできておりませんので、そういったようなことも含めながら、皆さんに住んでよかったと思われるような町づくりをしていく中で、子どもの数も安定していけばありがたいなというふうに思っております。

議　　長　　和田成功議員。

１　番　和　　田　　時間が無くなってきましたので、改めて最後に２番のまとめじゃないですけど、件名にもあります「心に寄り添う子育て支援」、ここをやはり積極的

に取り組んでいく。そうしたことによって課題解決にもつながっていく、町づくりにつながっていくというふうに考えております。

その辺について、改めて町長のお考えをお聞かせ願います。

議　　長　　町長。

町　　長　　そこはもう当然だというふうに思っておりますし、ほかの児童クラブもそうですし、様々な中で、子どもたちが、まずは安心・安全に通学なり通園できなければいけないということでございますので、そういったことがまずは大事なことだと。それからそういった０歳から15歳までの一貫教育ができるという山北町独自のことがありますんで、そういったことも含めて、それらを外部の人たちに発信して、理解していただくということがこれから大事ではないかなというふうに思っておりますので､そういったことも含めながら、しっかりと皆さんの御意見を聞きながら進めてまいりたいというふうに思っております。

議　　長　　和田成功議員。

１　番　和　　田　　今はしっかりと進めていきたいというような回答があったかと思います。期待しております。

続きまして３番、やまきた児童クラブについてでございますけれど、利用者数、利用登録者数ですかね。135名。平均利用者数58名と。私、何度かお邪魔して聞いてると60数名だとか、以前より少し利用者が多いのかな、増えているのかなといったところで、結構年度当初、４月５月って結構、何というんですか、落ち着きがないといいますかというような状況、以前目撃していたわけですけど、これ今年度に関しては、ある程度落ち着いた状況で子どもたちが過ごせているのかなといったところを見ております。

そういったところで、民間委託、業務委託されて、やはりそのときに民間ノウハウを活用してといったところがあったかと思います。見る限り移行するに当たって、あまり変化のないように移行しますというお話だったかと思います。もう年数たっております。上手に民間ノウハウを積極的に取り組んで、ただ放課後の子どもたちが過ごす場所を提供するだけではなくて、プラスアルファの部分といったとこも必要になってくるのかなって思います。そういったところの取組について、どのようにお考えか、御説明願います。

議　　長　　教育長。

教　育　長　　ただいまの質問に対して、お答えいたします。

現在、委託している事業者はほかの自治体での経験もあるということで選んだということを聞いておりますが、先ほどの町長の答弁にもありますように、利用者満足度、これについては先ほど高かったと思いますけれども、そのノウハウがそういうところの中で生かされてるんではないかなというふうに考えております。

以上です。

議　　長　　和田成功議員。

1　番　和　田　　今御答弁ありましたアンケートですかね。94.7%の方が満足している、もしくはおおむね満足している、そういった回答で、よりよい運営ができてるという認識だと思います。それで終わりなのか。さらに100%を目指してやっていくのか。いろいろなニーズもあって、100%というのは難しいのかもしれないですけど、また学童というのは保育の場であると、教育の場ではないというふうな捉え方だと思います。でも家庭の代わりであるならば、学び、学ぶ場所でもあると。学びの部分をもう少し加味していく。民間ノウハウを活用して、やられていくといったところがプラスアルファで必要になってくる。回答の中にも運動系、工作系、外国語、国際交流などを要望する声があると。それについて業者と今後連携を図って検討していくというような回答でした。そういった部分も進めていっていただきたいなと思いますけど、どういった形で進めていくのかといったところが、思いがあれば、御回答願いたいと思います。

議　　長　　教育長。

教　育　長　　よろしいですか。お答えいたします。

私自身も、かつて児童クラブのほうのちょっとお手伝いをしたこともあります。そういう中では、児童クラブの子どもたち、来てる子どもたち、日頃から家庭でお母さんが、お父さんが働いてる中で、放課後の時間をどうやって過ごすか、こういうものがあるわけですね。そういう中で、今言われた保育の部分ということもありますが、やはりできること、やっぱりそこで学びがあるとは思います。遊びの中にも学びがあるということで、特に幼稚園教

育とかそういうところの中で言われるのは、遊びを通して、学ぶ。そこの中で獲得していくもの。これはもうまさに教育の部分を担っているだろうというふうに私は考えております。

そういう中で、今言われたように、子どもたちのやはりこういう関係の中でプログラムを提供する。これについては今言った事業者、こちらとの、これからの密接な連携を取りながらどこまでできるのか、また何ができないのか、そういうものもはっきりさせながら、今後、推進していきたいというふうに考えます。

以上です。

議　　長　　和田成功議員。

1　番　和　　田　　回答にありましたように、再三になりますけど、期待しております。

そういったところで、しっかりと今の時代を担う子どもたちのため、それを支える保護者、地域の方というんですかね、そういったところも含めてしっかりと柔軟に対応していっていただければ､行く行くは町づくりだったり、将来の山北像というんですか。そういったものにも寄与してくるものだと考えております。期待しております。

以上で終わります。